

ハタハタ資源対策協議会資料

1 秋田県のハタハタ漁獲量

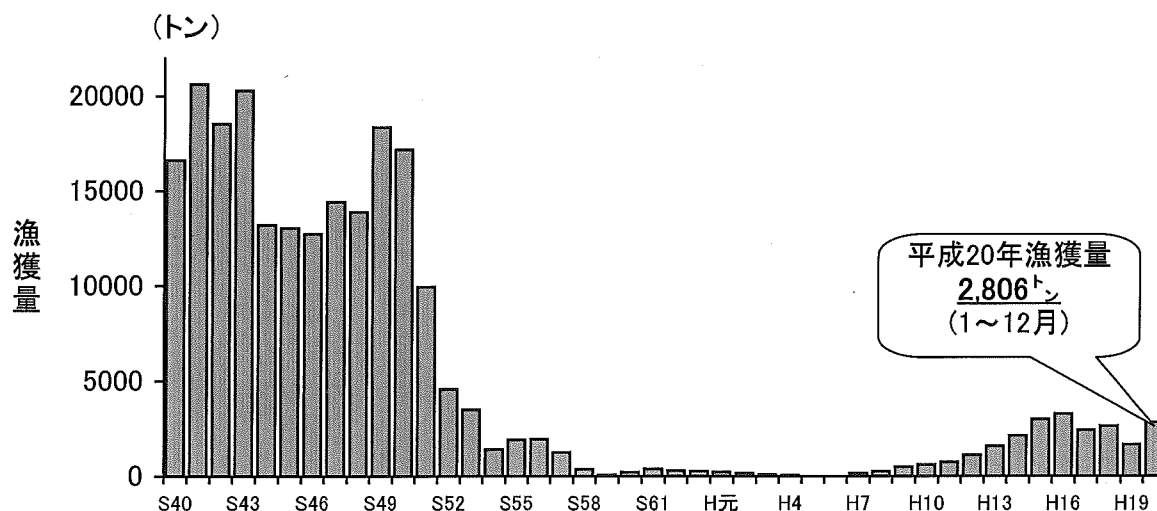


図1 秋田県のハタハタ漁獲量

(平成19年までは農林水産統計年報、H20年は水産漁港課調べ)

●H20年1~12月の漁獲量は2,806トンで、前年(1,653トン)の1.7倍を漁獲した。

2 日本海北部4県の漁獲量

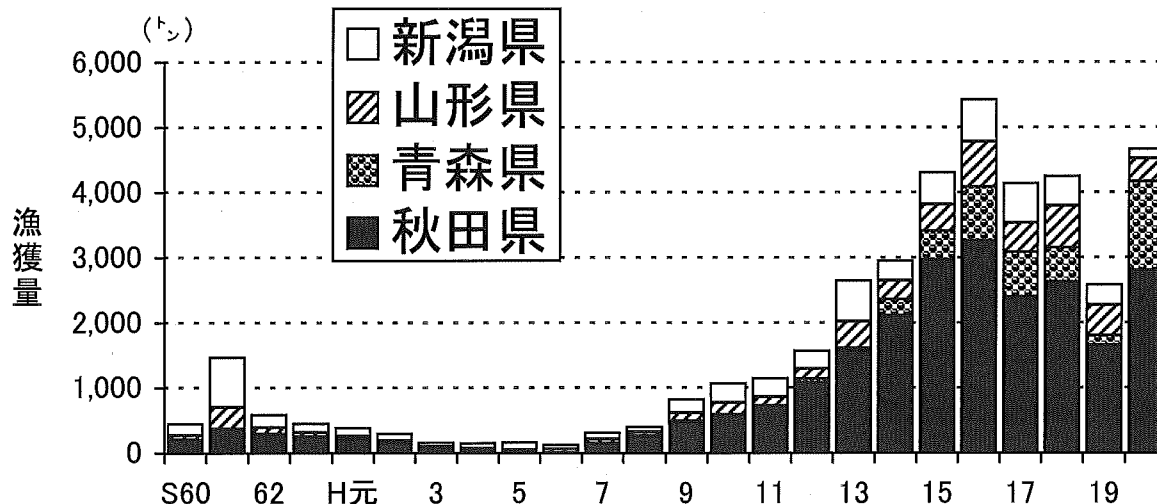


図2 日本海北部4県における漁獲量の推移

- 今漁期の4県漁獲量は4,660トンで、前年(2,576トン)に比べ1.8倍に増加した。
- 秋田県の割合は60%で、前年に比べ4ポイント低下した。
- 県別には秋田2,806トン(前年比1.7倍)、青森1,363トン(〃9.1倍)、山形351トン(〃0.7倍)、新潟140トン(〃0.5倍)と、秋田、青森両県での漁獲量の増加が著しい。

3 漁獲枠と漁獲実績

表1 秋田県におけるハタハタ漁獲枠と漁獲実績の推移

年	沖合			沿岸			合計		
	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)
平成 7年	85	53	63	85	89	104	170	142	84
8年	110	81	74	110	157	143	220	238	108
9年	180	139	77	180	288	160	360	427	119
10年	300	162	54	300	436	145	600	597	100
11年	400	142	36	600	537	89	1,000	679	68
12年	400	265	66	600	886	148	1,000	1,151	115
13年	520	506	97	780	958	123	1,300	1,464	113
14年	680	384	56	1,020	1,444	142	1,700	1,828	108
15年	960	907	94	1,440	1,938	135	2,400	2,845	119
16年	1,000	707	73	1,500	2,200	157	2,500	2,906	116
17年	1,000	489	49	1,500	1,864	124	2,500	2,353	94
18年	800	944	118	1,200	1,635	136	2,000	2,579	129
19年	720	847	118	1,080	770	71	1,800	1,618	90
20年	1,200	763	64	1,800	2,019	112	3,000	2,781	93

※ 沖合、沿岸とも、平成9年以降は管理漁期(9月～翌6月)のデータ。今漁期は1月末までの値(水産漁港課調べ)

4 漁獲量と漁獲金額

表2 ハタハタ漁獲量と漁獲金額の推移(水産漁港課調べ)

年	漁獲量(トン)			漁獲金額(千円)			単価(円/kg)		
	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計
平成 3年	56	17	72	109,232	53,565	162,797	1,968	3,227	2,258
4年	37	—	37						
平成4年9月～7年9月(禁漁期間)									
7年	54	89	143	196,724	239,821	436,545	3,657	2,704	3,063
8年	86	157	243	224,559	280,367	504,926	2,608	1,784	2,075
9年	129	288	418	220,853	488,958	709,810	1,709	1,696	1,700
10年	142	436	578	186,852	408,545	595,397	1,312	938	1,030
11年	157	537	693	200,717	543,696	744,413	1,281	1,013	1,074
12年	155	886	1,041	153,047	528,471	681,518	986	596	654
13年	445	958	1,404	394,324	594,687	989,012	885	621	705
14年	477	1,444	1,921	308,570	496,039	804,609	647	343	419
15年	959	1,938	2,896	458,570	589,328	1,047,898	478	304	362
16年	699	2,200	2,899	274,515	584,058	858,573	392	266	296
17年	489	1,864	2,353	236,348	535,562	771,910	483	287	328
18年	959	1,635	2,595	359,720	433,257	792,978	375	265	306
19年	844	770	1,614	498,319	284,925	783,243	591	370	485
20年	786	2,019	2,805	245,147	327,013	572,160	312	162	204
H20/H3	14.2	121.6	38.9	2.2	6.1	3.5	0.2	0.1	0.1
H20/H19	0.9	2.6	1.7	0.5	1.1	0.7	0.5	0.4	0.4

※ 沖合は暦年、沿岸は管理漁期(9月～翌6月)の合計値。今漁期の沿岸は1月末までの値(水産漁港課調べ)

5 沖合・沿岸別漁獲割合

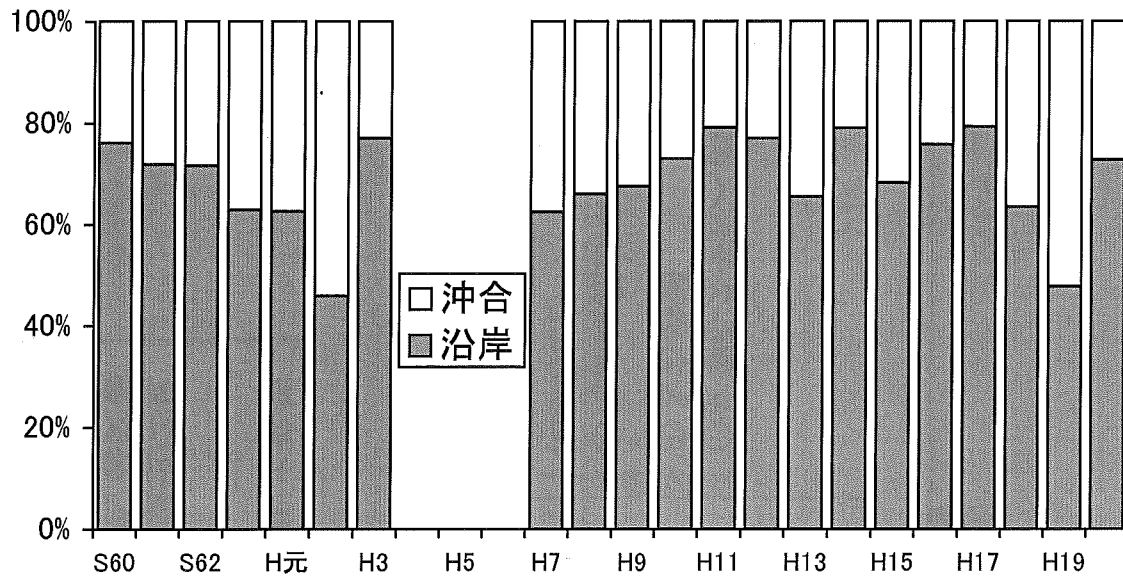


図3 秋田県における、沖合・沿岸別漁獲割合

※沖合、沿岸とも管理漁期(9月～翌6月)での漁獲量(水産漁港課調べ)

●昨年漁期は沖合漁が解禁後初めて50%を超えたが、今漁期は27%と平年並みになった。

6 漁獲金額と単価

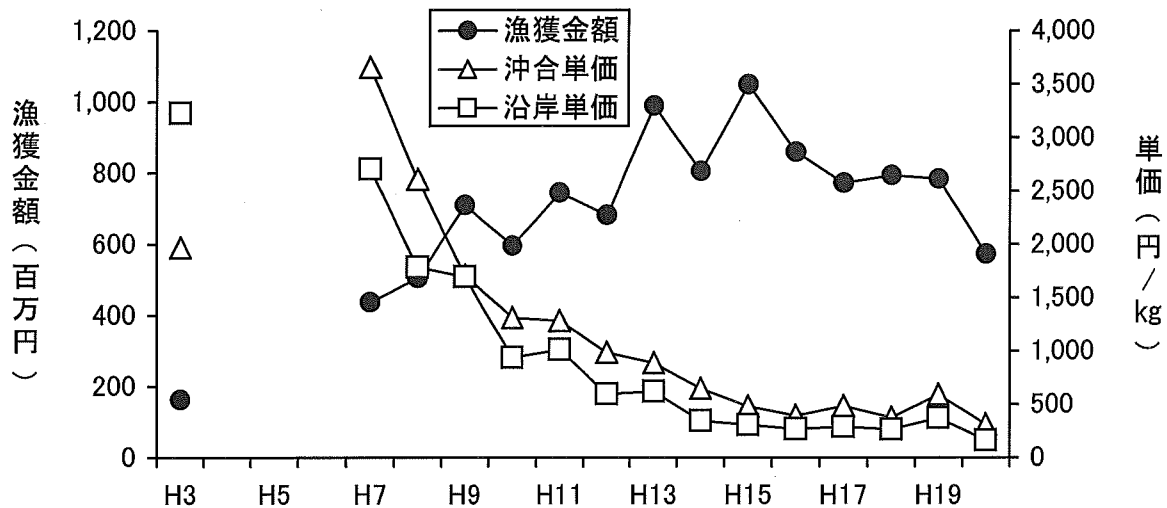


図4 ハタハタの漁獲金額と単価

※沖合は暦年、沿岸は管理漁期(9月～翌6月)の値。今漁期の沿岸は1月末までの値(水産漁港課調べ)

●今漁期の漁獲金額は5億7,200万円で、前年(7億8,300万円)に比べ約2億円減少した。
 ●kg単価は、沖合が312円(前年比-279円)、沿岸が162円(〃-208円)であり、ともに解禁後最も低い価格となった。

7 H20年漁期の沖合漁獲量

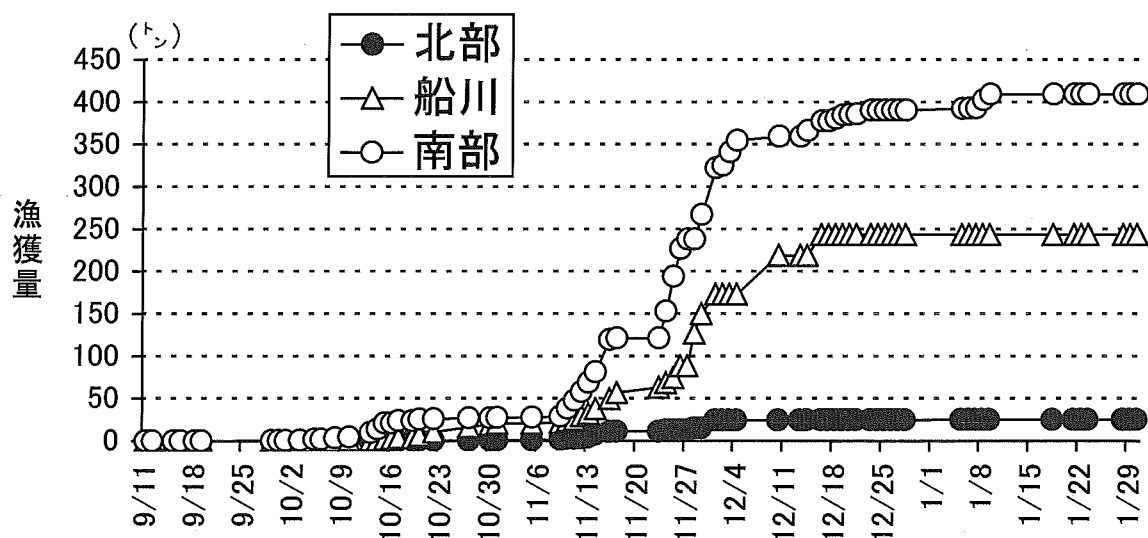


図5 底びき網での地区別・日別漁獲量

※北部(岩館・北部総括)、船川(椿・船川総括)、南部(南部総括・象潟・平沢)(水産漁港課調べ)

- 解禁日、初水揚げ日ともに9月11日だった。
- 今漁期は10月の漁獲量が例年になく多く、10月末時点で49トン(全県)に達した。
- 11月～12月上旬に南部、船川を中心に漁獲量が急増したが、12月中～下旬はほとんど漁獲されなかった。

8 前年との比較

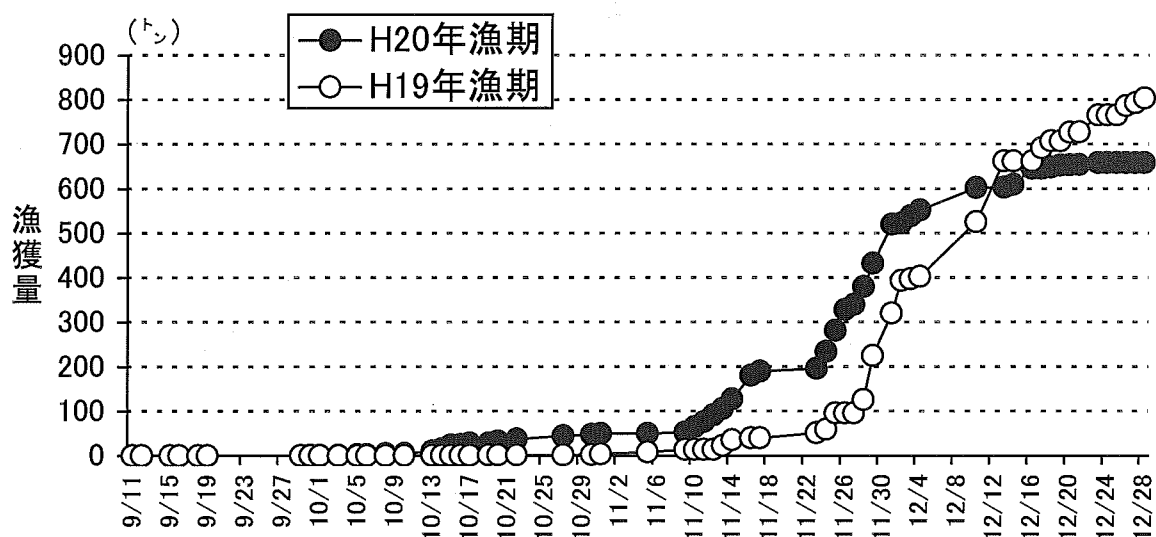


図6 H19、H20年漁期の底びき網による日別漁獲量の推移(全県)

- 今漁期の漁獲量は、10月末時点で49トン(前年比15倍)、11月末で432トン(〃1.3倍)だったが、12月末で659トン(〃0.8倍)となった。前年に比べ、12月以降の漁獲量は少なかった。

9 H20年漁期の沿岸漁獲量

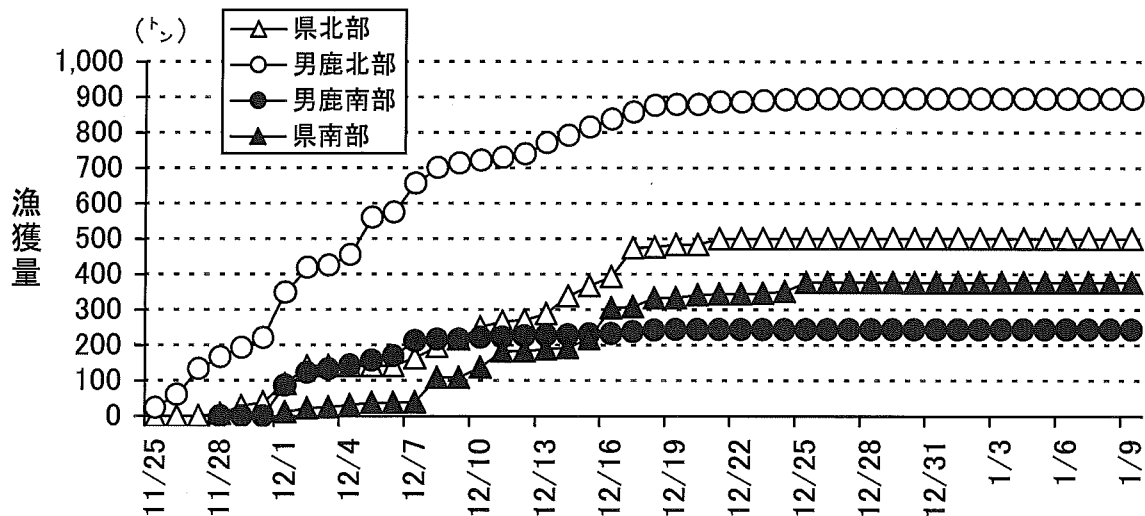


図7 沿岸での地区別・日別漁獲量

※県北部(岩館～能代)、男鹿北部(若美～戸賀)、男鹿南部(椿～天王)、県南部(秋田～平沢)
(水産漁港課調べ)

- 初漁日は11月25日(若美・北浦地先)だった。
- 初漁日直後から男鹿北部で漁獲量が急増したほか、県北部でも漁獲が順調だった。
- 男鹿南部、県南部でも12月以降まとまって漁獲され始め、全県的に例年にない豊漁となった。

10 前年との比較

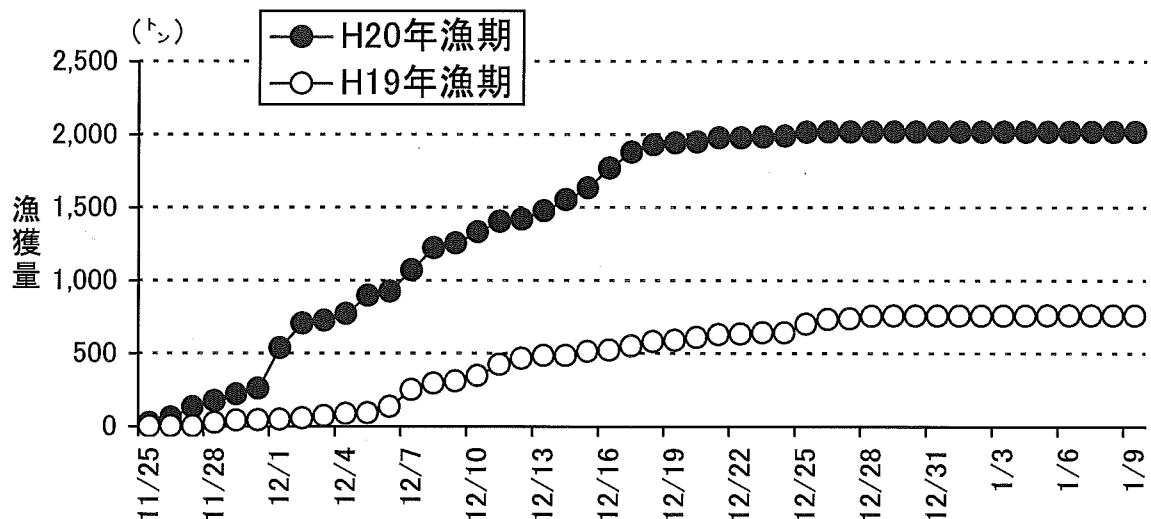


図8 H19、H20年漁期の沿岸における日別漁獲量(全県)

- 今漁期の漁獲量は、11月末時点で260トン(前年比6倍)、12月末で2018トン(〃2.7倍)となった。
- 漁獲量は、昨年漁期に比べ初漁直後から大きく伸び、12月上旬には全県で著しく増加した結果、12月中旬には概ね漁獲枠に達した。

11 ハタハタの体長組成

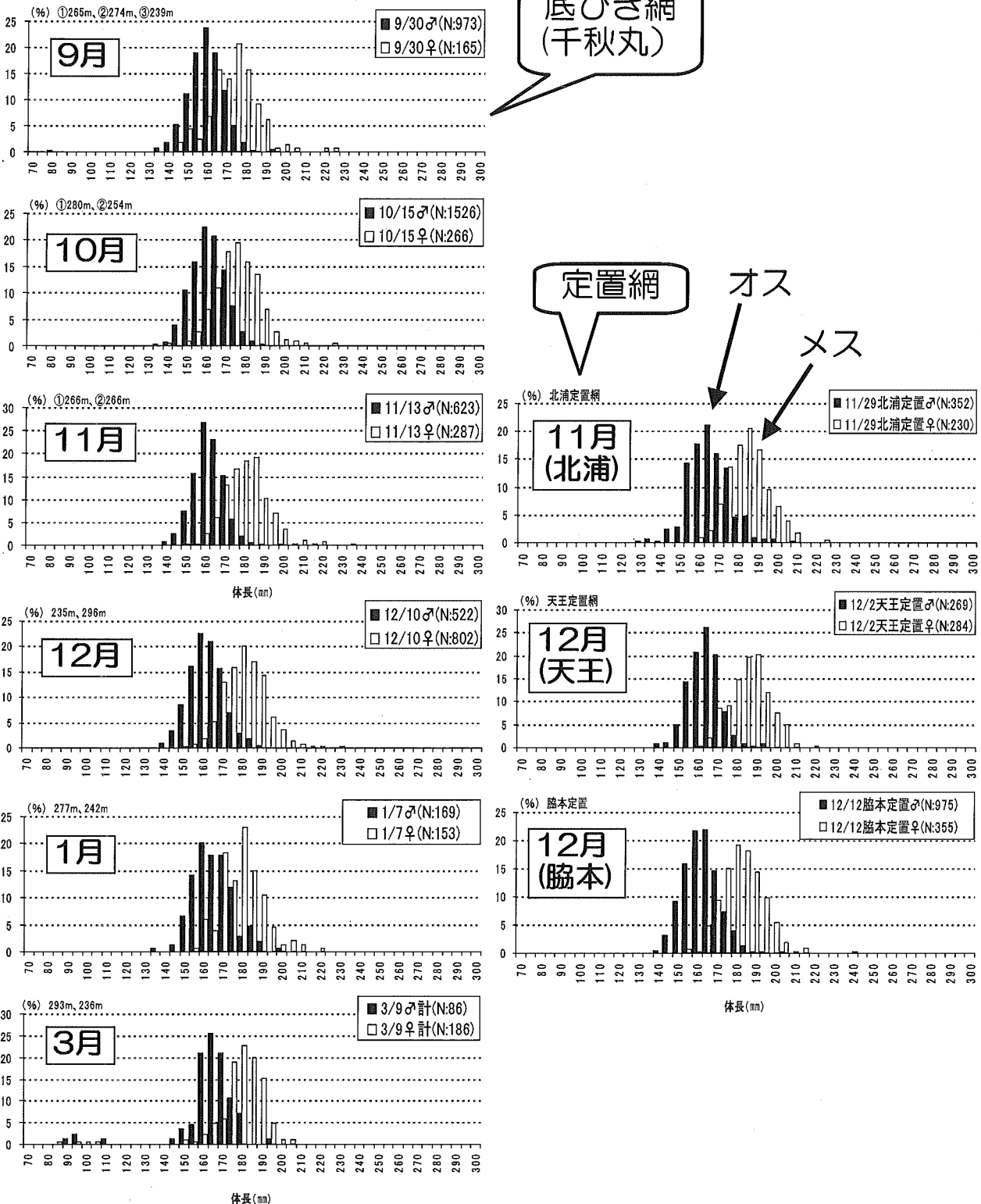


図9 底びき網(千秋丸)と定置網で漁獲されたハタハタの体長組成

- 今漁期のハタハタは、そのほとんどを2歳(H18年生まれ)が占め、それ以外の年齢群は非常に少なかった。
- H21年3月の調査でも、3歳(H18年生まれ)が主群となっている。2歳(H19年生まれ)はほとんど認められず、1歳(H20年生まれ)が僅かに混じった。

12 ハタハタ卵塊調査

表3 ハタハタ卵塊密度(個/m²)の推移

地区	定点	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
岩館	St.1(小入川)						26.9	27.0	11.9	173.8	14.7	75.5	14.9	7.2	2.3	1.4
岩館	St.2(小入川)	9.7	1.2	7.6	7.6	1.5	12.6	4.1	21.1	231.8	39.4	6.4		27.5	86.9	0.9
岩館	小入川増殖場								17.5	30.3	13.9					
八森	St.1(雄島)	0.0	0.0	0.4	0.7	0.0	0.3	0.0	0.1	8.2	0.0					
八森	St.2(ニッ森)	1.7	0.2	1.3			0.1	0.1	0.8	12.9	0.5	64.6		3.7	1.0	0.4
八森	St.3(漁協脇)				27.4	39.7	15.7	3.2	25.9	116.8	25.3	23.0	59.2	67.8	57.7	7.7
八森	St.4(滝ノ間)								53.2	192.8	112.8					
能代	St.1(南防波堤)		0.0	0.5		0.0	0.0									
能代	St.2(発電所取水口)		0.0	3.5	0.0	0.0	12.3	0.0								
能代	St.4(北防波堤)		0.0	0.9	6.0	0.0	6.6	0.0								
北浦	相川St.1	1.5	0.6	2.0	10.2	2.2		1.6	0.2	91.9	0.0					
北浦	相川St.2	2.1	0.6	1.7	6.6	4.4	5.5	2.4	0.1	9.7	25.4	2.8	3.3	2.8	7.6	5.5
北浦	相川St.3		1.8													
北浦	相川St.4		2.3													
北浦	八斗崎St.1(0.5m)	1.0	1.4	2.0	0.6	5.3	0.1	8.6	0.0	19.7	9.9	17.7	2.9	4.5	9.6	189.9
北浦	八斗崎St.2(1.5~2m)	0.1	0.6	3.1	6.3	3.9	1.7	1.1	0.2	12.6	70.1	13.3	0.5	0.7	0.1	1.5
北浦	八斗崎St.3(2m)								7.7							
北浦	八斗崎St.4(3m)								17.2	57.2						
北浦	八斗崎St.5(4m)								13.0		87.7	41.1	8.4	4.2	0.0	
北浦	八斗崎St.6(6.5m)									21.6						
野村		0.0	0.5	0.0	0.0	1.8	1.6	5.9	0.0	2.1	11.3	6.9	14.0	10.7	0.9	4.6
湯の尻	St.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.9	16.3	1.8	2.1	6.1	2.6	42.1
湯の尻	St.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.5	8.9	4.5	26.2	20.6	10.0	2.9	7.9	11.0
戸賀	St.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.8	6.6	0.1	28.8	17.4	0.1
戸賀	St.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	49.9	24.4	3.2	258.7	67.7	34.2
戸賀	St.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.4	5.3	1.4	7.6	3.8	32.6	6.9
台島	St.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.9	0.0		11.6	0.6	0.0			
台島	St.2							0.5								
女川	St.1							4.8								
女川	St.2							2.3								
船川	備蓄St.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	16.4	1.4							
船川	備蓄St.2						1.2	120.0	56.5	3.0	17.7	72.5	61.6	46.6	263.3	271.2
船川	金川St.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0		0.5	0.1	0.0	2.0	4.5	12.9
船川	金川St.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0		16.8	1.7	0.0	3.2	8.1	12.6
平沢	St.1	2.2	0.1	0.3	0.0	9.0	1.7	3.6	19.1	7.6	68.9		6.5	4.5	4.8	1.4
平沢	St.2(鈴分港)	0.5	1.5	1.1	9.0	10.4	16.8	44.0	30.6	34.9	69.8	288.7	51.6	102.5	37.5	162.3
平沢									13.3							
金浦	St.1	0.8		1.1	4.3	0.0	0.0	60.0	0.6							
金浦	St.2(飛分港沖側防波堤)						8.0	57.0	1.3							
象潟	St.1(小淵分港)						21.2	1.5	0.0							
象潟	St.2				27.0											

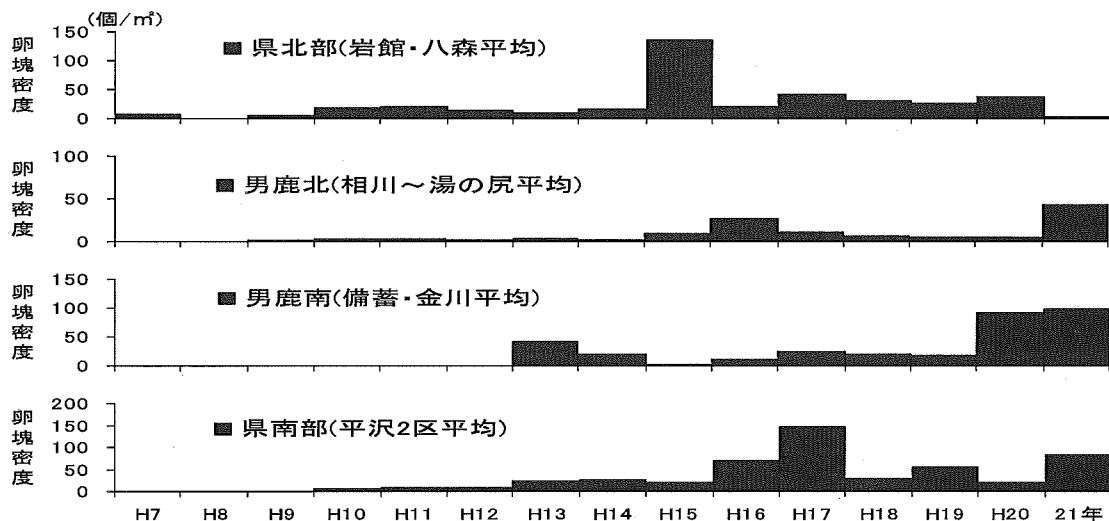


図10 地区別の平均卵塊密度

- 今期は北部を除き、例年に比べて卵塊密度が高くなった。北部では、調査区内のホンダワラ類が前年より減少していた。
- 男鹿北部での大幅な密度増加は、八斗崎調査点(水深1~2m)における藻場の回復に伴うものと考えられた。男鹿南部では、昨年からの備蓄基地調査点での密度が高水準である。また、県南部では、平沢で小型海藻に卵が多く産みつけられたため、密度が高くなった。